厄を一身に身代わり申

奈良町

奈良市の旧市街地「奈良町」で、家屋の軒先などにつるすと厄払いになる庚申信仰の縫いぐるみ「身代わり申」が、来年の申年を前に人気を集めている＝写真。

赤い体と白い頭で耳もしっぽもないシンプルなもので、猿が木に登る姿をモチーフにしている。災厄を代わりに受けてくれるとして江戸時代から親しまれており、背中に願い事を書いてつるすと、家内安全や商売繁盛などの願いがかなうとされる。

製作している奈良町資料館には、御利益を求める人たちの注文が全国から殺到している。同館の南哲朗館長(53)は「家族のつながりを表すお守りとして、思いを込めて手作りしています」。1個800～4000円。問い合わせは同館(0742・22・5509)。

【幾島健太郎、写真も】